

令和5年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1			極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	
3 教育活動	8 目標の設定	5	教育指導要領、学生便覧において、教育編成の方針、教育到達レベルについては明示されている。資格に対する指導、支援体制も明確になっており、現状、この項目についての課題は無い状況である。		5	●教育に関して明確な目標もとにカリキュラム構築や高等課程1期生結果として筆記が100%合格することができた事も活動の成果と言える。 ●学校側の教育内容を提供することは限界がある(学生の多様化)自分で学ぶ、自分で考えるという人間力を身につける教育が不足でないか。 ●業界のリアルを教えるといったところでは ・現場ごとのギャランティ(CM、イベント、TV、雑誌など) ・HMさんの1日、1週間、1か月のスケジュール感 ・アパレル撮影、CM撮影、TV収録、ドラマ撮影など媒体ごとに組まれている。 番盤表(タイムスケジュール) ・美容学校卒業後、ヘアメイクデビューだっり美容師スタイリストデビューまでの道のり (アシスタント何年したか、卒業後すぐにデビューしたとか) こういったところを卒業生たちに匿名でアンケートを取ったりして担任授業なんかで伝えるのも良いのではないかと思う。 ●授業の面に関しては、ヘアアレンジの授業で授業内の時間でおさまる程度の番盤表を組んでその中で仕込み～ヘアチェンジまでの流れをやってみるとか単に老けメイクだったり傷メイクという名目でやるのではなく “20代の役者さんを50代～60代に見せるメイク” “ドラマで旦那さんからDVを受けた奥さんのメイク” “ドラマの殴り合いのシーンでついた傷のメイク” のような感じでリアルに現場で必要とされる要望にそった授業があれば学生の好奇心も煽れるのではないかと思う。自分で創造する力もつくのではないかと思われる。
	9 教育方法・評価等	5	滋慶教育科学研究所(JESC)にて、教育課程作成方法、授業改善に取り組んで来ている。多様化する学生に対して、より細分化した、個々に対応する事が出来る幅広いカリキュラム構築が必要になる。			
	10 成績評価・単位認定等	5	毎年、学生便覧掲載内容、学則施行細則の見直しを行っており、単位認定、成績評価については入学前、入学直後のオリエンテーションや初年次教育において、詳細な説明を実施している。また成績評価、単位認定の基準に未到達が予測される学生への、補習・特別授業、カウンセリングも早期に実施し、全ての学生が卒業できる体制作りを行っている。	一コマ一コマの授業を大切にしてもらう為に、授業内で行われる小テストの点数を最終評価に反映させている。		
	11 資格・免許取得の指導体制	5	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。学園全体で国家試験対策センターを設置しており、1年に数回の、資格対策研修会・勉強会に、全教員が参加して、資格合格に向けての指導方法・指導体制について勉強し改善を図っている	模擬試験や特別対策講座を各資格で取り入れている。今後、不合格者対策として、国家試験対策センターが併設しているリスタートセンターとの連携を深めていく。		
	12 教員・教員組織	5	教員・資格・研修については、制度・内容も充実した体制をとっている。校務分掌による、常勤にスムーズな学校運用はもちろん、非常勤教員との情報共有や教授力の向上については、様々な取り組みを行っている			
4 学修成果	13 就職率	4	労働時間の短縮やや福利厚生の実、基本給のベースアップなどの改善が業界全体として進んでいますが、一方で美容学校に入学しても美容業界で働くことを希望しない学生が増加傾向になります。	キャリアセンター…就職に関する相談室を「キャリアセンター」という名称で設置している。 キャリアセンターの目的は ①入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ②在校生に対しての就職支援在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、現場実習等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援	4	●卒業後1年目の勤務状況調査の取組に感銘を受けました。令和4年3月卒業生では14%、令和5年3月卒業生では3%となり離職者減少傾向にある事も在学中の取組や企業側とのマッチングなどキャリアセンターの活動の成果と感じる。 ●希望進路に進めた、あるいはマッチングミスのない進路指導(キャリア・育成)が必要
	14 資格・免許の取得率	4	カリキュラムの見直しはもとより、日々の学生の理解度向上のため教育プログラムの構築に努めている。 理解が進む教授法としてのアクティブラーニングを全面展開していく為の仕込みを行ってきた。			
	15 卒業生の社会的評価	3	卒業後1年目の勤務状況調査を毎年実施しており、平成27年度の調査(平成27年3月卒対象)では21.5%、平成28年度(平成28年3月卒対象)では17.7%、と少しずつ減少し令和4年3月卒業生では14%となる。			

令和5年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1			極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	
5 学 生 支 援	16 就職等進路	4	開校以来、専門就職と内定100%に向けての就職支援・指導の徹底を教職員一丸となって取り組んでいる。就職支援・指導のため、開校以来教務部だけではなく、キャリアセンターを設け、求人票の獲得や、学生の内定を勝ち取るためのシステムを構築している。	【学内企業説明会の実施】 企業の採用時期に合わせて開催し、学校に採用の担当者をお呼びし、面接試験などを行ってもらう。 【履歴書作成＋面接指導】 自己PRと志望動機について、学生と相談しながらより魅力的な内容となるよう、徹底指導を実施。また面接本番に向け、学生は職員から面接指導を受けることを基本的に義務化している。そして、面接指導をした職員は、各学生のウィークポイント克服に向けて、他の職員に情報を共有し次の面接練習に活かす工夫をしている。	4	●キャリアセンターで就職サポートや退学者の低減、カウンセラー教育、保護者との連携など学生一人一人との向き合い方が誠実に実行されてると感じる。 ●入学して早々に学校を休みがちとなり、学校にご相談をと思った時に、学校の仕組み(担任)が分からずどうしたら思った。 できれば、担任より通知でもして頂けると保護者として安心を感じれるかもと思います。 また学校と保護者とで気軽に連絡が取れるツールがあると仕事をしている保護者もタイムロスがなくご相談出来やすくなるのではと考える。
	17 中途退学への対応	4	専門学校の退学者率の水準が一般に10%と言われている中で、本校の低減度合は高いレベルにあると思われる。ひとり一人の学生に合わせた支援体制が構築されつつあるが、入学生の変化に柔軟に対応できる体制が求められる。	基礎学力不足の学生向けの補習や、学生ひとり一人の相談にのれるよう定期的なカウンセリングなどに力を注いでいる。 アクティブラーニングの全面展開により、授業満足の向上に繋げていく事を検討している。		
	18 学生相談	5	JTSCを設置し、精神面、既往歴、人間関係に関する相談をいつでも受け入れる体制が既に整備され、有効的に機能している。全教職員が「JESC教員カウンセラー資格」を取得し、学生の問題早期発見に結びついている。また、毎年行うサポートサンケートも問題発見に大きく貢献している。相談内容、相談件数等の分析をし、カウンセラー自身が担任研修を行うなどの取り組みも行っている。	全教職員が、カウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESC教員カウンセラー資格」を取得しカウンセリング技術の統一を図っている。心理学・カウンセリング基礎知識の習得のより学生相談室との連携がスムーズになっている		
	19 学生生活	5	様々な側面からサポートを必要とする学生が多く、学校もそれに充分応えられるよう学園およびサポート企業のスケールメリットを生かした体制を作っている。その中でも特に学費サポートのニーズは高く、学園内専門の教育を受けたフィナンシャルアドバイザーを常駐させている。	合同部活動は、・サッカー(フットサル部)・ソフトテニス部・硬式テニス部・バスケットボール部・バレーボール部・卓球部・バドミントン部・軟式野球部・e-sports部の計9つとなっている。		
	20 保護者との連携	5	入学から資格取得、就職、卒業に至るまで保護者の協力は重要と考えており、入学時から保護者連携の体制を確立している。特に出席不良者の保護者との連携は密に図り、改善に繋げている。	日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分るような取り組みを行っている。		
	21 卒業生・社会人	3	想定される様々な事案での支援策を講じている。成功例、失敗例をケーススタディとし職員研修で役立てている。担任自身が解決できない問題は速やかに担当部署や担当者と連携を取るシステムが出来上がっている。	【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。 【国家試験フルサポート制度】 資格取得に関して、在校時に未取得でも卒業後も無料で特別講座を開く体制を整えている。		

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和6年5月27日実施】

令和5年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1			極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	
6 教育環境	22 施設・設備等	5	実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。各教室、実習室は、各種の申請に必要な条件を全て満たす環境として、認可を得ている。ICT教育設備の充実にもチャレンジしていく。		5	●実習授業に力を入れているところも生徒のよりリアルな現場感教育が浸透し一年後の離職率低減に繋がってると感じ取れる。 ●業界(店同士)が連携して人材育成の発掘をしようとしていると聞いた。当校としても対応した方が良いかと思われる。 ●ヘアメイク科において技術だけを求められる現場だけではなくヘアメイクイメージの打ち合わせからあるような現場が増えればよりリアルなヘアメイクとしての仕事を理解していけるのではないかと思われる。ヘアメイクさんとしての動き方が理解できていればいざアシスタントになった時現場での必要な動き方も見えてくるかと思われる。
	23 学外実習、インターンシップ等	4	学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。			
	24 防災・安全管理	4	防災、火災訓練に関して、学生、教職員、講師へ避難手順や対応方法を、学び防災意識を高めることができた。安全管理委員長の元、安全管理委員会を実施し、安全管理に努めている。また防犯対策として、防犯カメラの増設設置を行っている。	防災訓練の映像化(DVD)がされており、学生・教職員・講師全員が視聴し、防災の意識を高められるように努める。 【AEDの校舎設置】 校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計1台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。また教職員には、使用方法の講習済みである。 教職員向けに心肺蘇生法の講習を定期的に実施している。		
7 学生の募集と受け入れ	25 学生募集活動	5	学生募集活動は、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則をもとに、その年の入学案内、募集要項の通り、適正に行われていると考えている。	学校として、学生募集活動を入学前教育と位置づけており、受験生の①職業適性の発見・開発②目的意識の開発の支援をしていく重要なプログラムであると考えている。	5	●学生募集活動に関しても、学内に個人情報保護委員会を組織化するなど安心して入学できる環境が整ってる。
	26 入学選考	5	福岡県専修学校各種学校協会の定めによるルール、及び学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。人権同和研修会にも学校長、事務局長が出席し学内での研修にも取り組んでいる。	将来の希望分野への適性を見極めるため、面接の比重を多くしている。結果として、学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている		
	27 学納金	5	学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務づけに合わせて、本校でも平成17年4月1日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。経済的困難な家庭も増えているため、学納金は注目される件である。無駄な要素がないよう教材や講師の選定、授業運営は慎重に行っている。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。 また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたつてのアドバイスを実施している。		

学校法人 滋慶学園 福岡ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和6年5月27日実施】

令和5年度自己点検自己評価(令和5年4月1日～令和6年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価	自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員評価点	学校関係者評価委員よりの御意見
		極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1			極めて優れている…5 優れている…4 適切…3 若干改善が必要…2 根本的改善が必要…1	
8 財 務	28 財務基盤	5	将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年5か年の予算を組んでいる。これにより中長期の視点で、予算を管理することができている。	キャッシュフローを重視した運営をしている。また、単年度の予算を綿密に作成している。指揮命令の系統が明確になっており、内部承認体制が確立されている。	5	●将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年5か年の予算を組むなど短期、中長期の視点で予算を管理することにより健全な運営ができていると思われる。 ●2学校運営に同じ。
	29 予算・収支計画	5	予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているので妥当な方法と考えている。 5年を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実在即した予算編成になっているものと考ええる。	予算を立てるだけでなく一年の流れの中で随時見直しをしている。それにより収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっている点が特徴として挙げられる。		
	30 監査	5	現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考ええる。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	私立学校法上義務付けられている「監事による監査」を受けているが、それに加えて、補助金対象ではない当学校において「公認会計士による監査」も受けている。これによって適正な計算書類の作成とその信頼性の確保に努力している。		
	31 財務情報の公開	5	財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		
9 法 令 等 の 遵 守	32 関係法令、設置基準等の遵守	5	法令や設置基準の遵守に対する方針は文章化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、平成17、18年度で完全に整備させた。 また、教職員の啓蒙として、法令や設置基準を遵守に対する教育または研修を、リーダーと実務担当者で実施している。	監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象としてコンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。	5	●自己点検、学校関係者評価を毎年実施し、学校運営の改善に努め、情報公開を行っている事も共感できる取組と言える。 ●2学校運営に同じ。
	33 個人情報保護	5	平成17年4月1日に個人情報保護の体制は完了している。今後は個人情報保護の教職員への啓蒙(＝研修制度確立済み)と、その運営体制の整備に力を入れることを考えている。	外部機関の「TRUSTe」より国際規格の認証を獲得し、毎年個人情報保護管理状況についての検定を受け、ライセンスを更新し、ホームページ上に明記している。		
	34 学校評価	5	職業実践専門課程の申請によりHPの構成を見直すことができ、情報公開のページを分かりやすく変更した。	学校ホームページにて学校情報を公開している。		
	35 教育情報の公開	5	自己評価及び学校関係者評価について討議をした結果、平成25年度から学校関係者評価の実施に向けた取組みを行なうことと合わせて、自己点検・自己評価は原則として全文公開することが決まり、平成25年度よりHP上で公開を行っている。	学校ホームページに情報を掲示している。		
献 1 ・ 0 地 域 社 貢 会 献 貢	36 社会貢献・地域貢献	4	海外との国際交流プログラムは研修費用の面で参加できない学生も多いため、国内で学習できる国際性教育もプログラム化している。		4	●地域貢献やボランティア活動などを通じて学生の内面的教育にも力入れてると感じられる。 ●あいさつの励行をお願いしたい。地域と学生で清掃など合同で実施してはどうか。
	37 ボランティア活動	4	学生のボランティア活動に関しては、現状学校主導でサポートしている部分が主である。今後、全ての学生が、ボランティア精神を持って、主体的に活動できるような教育プログラムを構築する必要がある。			